

## 総則

芦原カラテを発展させ、思いやりと尊重の精神をもって各支部・各国間の文化交流を促進することを最終的な目的として、世界選手権を開催する。

世界選手権に参加するすべての選手および大会役員は、N.I.K.O（新国際空手道連盟 芦原会館）の正規会員証を有する会員でなければならない。

## 組織体制

### NIKO 実行委員会

- 世界選手権出場希望者の申込書を審査する。
- 世界選手権の開催地と期日を決定する。
- 試合規定を承認する。
- NIKO の代表として世界選手権に出席する。

実行委員長	会員
Mr. Hidenori Ashihara（日本）	Mr. Kim Andersen（デンマーク） Mr. Takashi Hara（日本） Mr. Kouichiro Saiki（日本） Ms. Motoko Izumi（日本）

### NIKO 組織委員会

- 世界選手権の開催に向けて、開催国を支援する。
- 高いレベルの世界選手権を実現する。
- 最新の開催指針への準拠およびすべての規定の遵守を徹底させる。
- トーナメントの進行状況について、全支部に随時知らせる。

組織委員長	会員
Mr. Nicolae Dascalu（ルーマニア）	Mr. Eduard Hutanu（ルーマニア） Igor Otarov（カザフスタン）

### NIKO 審判委員会

- 公式試合規定を確認し、理解する。
- NIKO 審判員を認定する。
- 公認審判名簿を世界選手権に提供する。
- 世界選手権の審判団を組織する。

審判委員長	会員
Mr. Mads Jensen（デンマーク）	Mr. Frank Mikkelsen（デンマーク） Mr. Sorin Popa（カナダ）

### 審判所

試合の裁定に責任を持つ大会役員の監督と調整を行うこと。  
 試合場の管理に責任を持つ大会役員の任命と割り振りを行うこと。  
 必要な場合に、代替役員を任命すること。  
 試合中に生じ得る、規則に規定のない技術的問題に対する最終決定。

### 監査

担当する試合場で行われる全試合の主審および副審の監督。  
 これまでに主観的な判定により警告を受けた主審や副審がいれば、解任する。  
 担当する試合場の、公正かつ客観的な判定に責任を負う。

### 主審

試合の開始、中断、終了を宣言し、試合を取り仕切る。  
 得点や反則を与える。試合前、試合中、または試合後に警告を行う。  
 副審に意見を求め、意見に基づいて行動する。  
 審判委員会による判定を行い、試合結果を発表する。

### 副審

紅白の旗で合図をして、主審を補佐する。  
 判定で決定を行う際に、自分の判断を示す。  
 選手の動きを観察し、主審に合図して意見を伝える。

## 組手 → 点数制度

一本	4点	認められている技を決め、5秒経過後に相手が試合を続行できないとき。
技有	2点	認められている技によって一方の選手がダウンし、直後の5秒以内に試合を再開できるとき。  認められているサバキや投げの後で、一方の選手が <u>制圧され、得点された</u> とき。
有効	1点	認められているサバキ・投げ・カッティングの後で、一方の選手が制圧され、得点 <u>されなかった</u> とき。

- 一本を取った時点で、試合が終了する。
- 技有2本で一本とし、その時点で試合が終了する。
- 有効2本で技有とする。
- 有効4本で一本とし、その時点で試合が終了する。

## 組手 → 認められている技

## 以下の部位に対する蹴り

- a. 頭部（後頭部を除く）、顔面、頸部（気管部を除く）
- b. 腹部、胸部、胸部側面（肋骨）、背部（脊椎部を除く）
- c. 脚部（膝関節を除く）
- d. 腕部（関節を除く）

幼年部と少年部の蹴りに関する制限事項にご注意ください。

## 以下の部位に対する突き

- a. 腹部、胸部、胸部側面（肋骨）、背部（脊椎部を除く）、腕部、脚部。  
なお、以下の新规定（b、c、d）は、一般部（18歳以上）の新方式部門にのみ適用されます。
- b. 頭部（ヘッドギアで保護）への突きは認められる。
- c. 1回のコンビネーションでは、頭の高さへの突きは連続3回までしか認められない。  
(連続3回の頭の高さへの突きの後には、蹴り技またはボディへの突きを行わなければならない。)  
(頭の高さへの連続4回目の突きは禁じられており、反則とみなされる。)
- d. 突きとは、拳のみによる打撃技のことであり、前腕部、肘、肩によるものではない。

## 掴み

- a. 片手のみで掴んでの打撃・蹴り・投げ・カッティングは、3秒以内でなければならない。
- b. 「廻し受け」をしながら掴んでの（両手で相手の片側のみを掴む）蹴り・投げ・カッティングは、3秒以内でなければならない。

## 掴み打撃

- a. 頭部の掴みは片手のみ、その後の打撃は1回のみ認められる。
- b. 掴んでいるとき、頭の高さへの蹴りは1回のみ認められる。  
なお、以下の規定（c、d）は、一般部（18歳以上）の新方式部門にのみ適用されます。
- c. 掴んでいるとき、頭の高さへの突きは1回のみ認められる。
- d. 掴んでいる間、頭の高さへの突き1回+蹴り1回のコンビネーションが認められる。

## 掴み投げ

- a. 適正な掴みから相手を床にねじ伏せ、適正かつ制御した技で得点することは認められる。
- b. 芦原カラテの投げ技には、「巻き込み投げ」「裏投げ」「カッティング」「引き倒し」がある。

## 組手 → 禁止されている技

- 頸部（気管部）に接触する技。
- 金的・脊椎・手首（膝関節）への攻撃、足の踏みつけ。
- 腕技による顔面への攻撃（一般部では可）。
- 頭の高さへの肘打ちは、全部門で禁止されている。
- 危険または禁止されている投げ技（腰投げ）。
- 頭突き。
- 両手で頭部や頸部（の両側）、両肩を掴むこと（廻し受けは可）。
- 片腕および反対側の脚を掴むこと。

- 両手で脚を掴むこと。
- 腰投げに類する投げ技。
- 技または認められている投げを使わずに、（恐怖から）相手を押ししたり掴んだりすること。
- 相手を押して、場外に出そうとすること。
- 倒れている相手に接触しながらの攻撃。
- 後方への投げである裏投げの際に、顔面に触れることは禁止されている。
- 相手を負傷させる恐れがある制御されていない廻し受け、および揺さぶり（掴みながらの、相手の後頭部への打撃）。
- 打撃や固め技による、相手の関節を狙ったすべての攻撃。
- 審判が不適切と判断したその他すべての技。

### 組手 → 頭の高さの部位への接触

#### 幼年部

- 頭部への膝蹴りおよび前蹴りは禁止されている。
- その他すべての足技は、ライトコンタクトで認められている（打撃を受けた側のバランスが崩れない程度）。
- 制御されていない場合、攻撃した側が反則となる（打撃が制御されなかったとみなされる）。

#### 少年部（Ⅰ、Ⅱ）

- 頭部への膝蹴りは禁止されている。
- その他すべての足による打撃は、ライトコンタクトで認められている（打撃を受けた側のバランスが崩れない程度）。
- 制御されていない場合、攻撃した側が反則となる（打撃が制御されなかったとみなされる）。

#### 一般部

- 頭の高さへの突きは、連続 3 回までしか認められない。
- 連続 3 回の頭の高さへの突きの後には、蹴り技またはボディへの突きを行わなければならない。
- 頭の高さへの連続 4 回目の突きは反則とみなされる。
- 肘、前腕部、肩での打撃は禁止されている。

### 組手 → 反則制度

警告 → 軽微な違反や故意ではない違反に対する、口頭による警告。警告では、減点されない。

反則 → 得点が減点される。反則は、警告の次の段階である。

警告および反則を選手に与える順番が重要であり、警告（駄目）から反則（注意）へと順を追って進んでいく。

順番は次の通りとする。駄目 → 注意 1 → 注意 2 → 注意 3（失格）

軽微かつ故意ではないミスについては、第一段階で警告を与える。そして、次に同じミスを繰り返した場合には、下表に従って反則（注意 1、注意 2 など）に移行する。

駄目	注意 1	注意 2	注意 3
0 点	1 点	2 点	失格

段階的に言い渡される反則は、軽微な違反の繰り返しに対してのみとする（掴みの時間超過、意図的でない突き等）。重大な違反に対しては、注意 2 や注意 3 が直ちに与えられる場合がある。

### 組手 → 勝敗

勝敗の基準は、以下のうちいずれか一つとする。

- 得点（得点の高い方が勝ち、4 点に達した時点で試合終了）
- 判定（同点の場合）
- 失格（反則、失格、棄権）

同点の場合には、主審と 4 人の副審による最終判定を行うものとする。どちらか一方の選手に票を入れることが義務付けられている。判定の基準は次の通り。

- 技術的な優位性（正確性、動きの主導権）
- 気迫（心構え）
- 身体状態（スピード、耐性、体力）

組手→ 年齢・体重別部門

年齢	性別	重量				
(14 歳以下) 幼年	男性	-40 KG	-50 KG	-60 KG	+60 KG	
	女性	-45 KG	+45 KG			
(16 歳以下) 少年 II	男性	-55 KG	-60 KG	-65 KG	+65 KG	
	女性	-55 KG	+55 KG			
(18 歳以下) 少年 I	男性	-55 KG	-65 KG	-75 KG	-85 KG	+85 KG
	女性	-55 KG	-60 KG	+60 KG		
(18 歳以上) 一般	男性	-60 KG	-70 KG	-80 KG	-90 KG	+90 KG
	女性	-55 KG	-65 KG	+65 KG		
(35 歳以上) 壮年	男性	-80KG	+80KG			
	女性	-65KG	+65KG			

組手→ 試合時間

年齢	性別	予選 (分)	準決勝・決勝 (分)
14 歳以下 幼年	男性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
	女性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
16 歳以下 少年 II	男性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
	女性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
18 歳以下 少年 I	男性	3 → 体重判定 → 1 → 最終判定	3 → 1 → 1 → 最終判定
	女性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
18 歳以上 一般	男性	3 → 体重判定 → 1 → 最終判定	3 → 1 → 1 → 最終判定
	女性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
35 歳以上 壮年	男性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定
	女性	2 → 体重判定 → 1 → 最終判定	2 → 1 → 1 → 最終判定

**型 → 概要**

- 型トーナメントの試合形式は、**個人戦**と**団体戦**の2種類とする。
- 個人戦の選手は1人である。
- 団体戦のチームは3人で構成される。
- 型は2回行い、サバキと力の制御を実演する。これは、芦原カラテ独自のものである。
  - 1回目：単独演武
  - 2回目：サバキの型を対人で行い、型の意味を実演する。
- 選手は（個人戦・団体戦ともに）、毎回違う型を行わなければならない。

型を行う際には、単独型とサバキの型を合わせた**制限時間**がある。

**型 → 型の実施方法****個人戦**

- 各型は2回行わなければならない。
- 1回目：単独演武
- 2回目：サバキの型を対人で行い、型の意味を実演する。
- 個人戦の各選手には、相手役（取り）が1人必要である。
- 「取り」は、その試合で選ばれる型に応じた攻撃を理解していなければならない。

**団体戦**

- 各型は2回行わなければならない。
- 1回目：団体演武として、チームの全員が同時に型を行う。
- 2回目：サバキの型を対人で行い、型の意味を実演する。
- 2回目は、選手の1人のみが「受け」として実演し、他の2人は「取り」となる。
- チームの全員が2回目の実演にも参加しなければならない。
- チームの選手3人のうち、1人が「受け」を、他の2人が「取り」を担当する。
- チームのメンバーが試合中に負傷した場合に限り、別の「取り」と交代することができる。
- 「取り」は、その試合で選ばれる型に応じた攻撃を理解していなければならない。

**型 → 評価の基準**

型の審査には、以下の主要評価基準要素が用いられる。

**1. 芦原型の正確さ**

すべての動きは、選ばれた型における実際の動きと一致していなければならない。

**2. 相手役との型の実演**

相手役と型を実演する際の、力の制御。

- 力を制御できずに相手役を負傷させた場合、ミスを犯したとみなされる。
- 相手役の動きが上げさまたは非現実的な場合にも、ミスを犯したものとみなされる。

**3. 技術的な巧拙**

- 基本技術
- 決め
- 勢い・スピード・バランス
- リズム
- 同調性（団体戦のみ）

型の審査においては、3つの基準すべてを同程度に重視するものとする。

- 5人の審判全員が、白または赤の旗を一斉に上げて、自分の判断を示さなければならない。
- 判断は白または赤のいずれかでなければならない。引き分けの判断は認められない。
- 多数票を獲得した選手（チーム）が勝者と宣告され、次の試合に進む。

**型→ 加点要素と減点要素**

**加点要素**

すべての審判は、勝敗を判定する際に、以下の加点要素を考慮しなければならない。

- その試合で選ばれた型と一致する、正しい動きをしている。
- 相手役と型を行う際の、適切な力の制御。
- 相手役と型を行う際に、相手（取り）を負傷させることなく、実戦的な動きをしている。
- 適切かつ正確な基本技術。

**減点要素**

すべての審判は、勝敗を判定する際に、以下の減点要素を考慮しなければならない。

- 選ばれた型と一致しない、間違っただ動きをしている。
- 団体戦における同調性の欠如。
- 相手役と型を行う際に、力の制御ができず、相手を負傷させてしまう。
- 相手役と型を行う際に、相手役の動きが非現実的で大げさである。
- 「取り」が間違っただ攻撃を行っている。
- 単独型や相手役との実演の際に、バランスを崩す。
- チーム内の同調性を高めるために、何らかの（視覚的な、または音声による）合図を行っている。
- 型の実施に対する制限時間を超過する。

**型→ 制限時間**

時間計測は、1 回目の単独演武前に行う最初の礼から開始し、2 回目の相手役との演武後に行う最後の礼で終了する。

型を行う際の制限時間（対人での実演を含む、型全体の実施時間）：

区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ	区分Ⅳ
1 分 10 秒	1 分 20 秒	1 分 30 秒	1 分 40 秒
初心 1	初心 2	初心 3	投げ 3
基本 1	基本 2	基本 3	投げ 4
投げ 1	投げ 2	組手 3	組手 4
組手 1	組手 2	実戦 1	組手 5
			実戦 2

**型→ 部門**

**個人戦**

個人幼年	個人少年	個人一般
14 歳以下男性	18 歳以下男性	18 歳以上男性
14 歳以下女性	18 歳以下女性	18 歳以上女性

- 選手の年齢と性別のみによって、出場部門が分かれている。
- 相手役（取り）は、男女を問わない。
- 例えば、女性選手の相手役（取り）が男性でもかまわない。
- 相手役（取り）は、どの部門に属していてもよい。

**団体戦**

団体幼年	団体少年	団体一般
14 歳以下	18 歳以下	18 歳以上

- 団体戦には、3 人チームのみが出場できる。
- 男性、女性、男女混合の区別はない。
- 全チームが、年齢に応じた各部門で試合を行う。
- 男女混合チームでの参加が認められている。選手の年齢に応じた部門に出場する。
- 1 チームは 3 人の選手で構成される。
- チームのメンバー 3 人は、全員が同じ年齢別部門に属していなければならない。